
眠さとメモと心拍数

kazu1196

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠さとメモと心拍数

【Nコード】

N0154M

【作者名】

kazu1196

【あらすじ】

少年少女の少し甘い話。

彼は退屈だった。

彼女も退屈だった。

そんなときの至福な一時。

あくびが止まらない。

眠い。ああ、眠い。

目が霞んでくる。でもシャーペンを動かす手を止めるわけにはいかない。

ヤバイ。頭がガクガクしてきた。

コツン。コツン。コツン・・・

そんな時、後ろからシャーペンで俺の背中を叩く奴がいた。困る。とっても困る。

小さい頃に背中をとんとん叩かれながら、寝たことを思い出して余計に眠くなるじゃないか。

もともと眠たいのが原因なんだが。

突然、上から見事にまるめられた紙が降ってきた。

先生が黒板に意識を移した間に、俺は目を盗んで紙切れに書いてる内容を見る。

>今日の帰り、一緒に帰ろ？<

心が少しくすぐつたくなつた。

ノートの切れ端を俺は作って彼女に返事を書く。

>うん。どこ行く？<

腕を背中に回して、彼女に手渡す。

その時にちよつと、ちよつとだけ手が触れる。恥ずかしかった。顔がちよつと熱い。

背中にまたコツンと音が響く。

少しだけ、振り向いて紙を受け取る。

目があった。

綺麗だった。

ずるいと思った。

だって目があった瞬間、彼女がふと笑ったのだ。

本当にずるい。

そんな恥ずかしい心をごまかす為に、切れ端をみた。

>どこでもいいよ。手つないでならねく

眠気はとっくに覚めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0154m/>

眠さとメモと心拍数

2010年10月17日10時58分発行